



港区を「福祉最先端都心」に！

超高齢化社会に直面している日本は、増大する社会保障費を次世代が高負担せざるを得ません。港区は加えて、都心特有の課題を抱えています。だからこそ、特に介護や子育てに直面する女性・経験豊かな高齢者が、いきいきと地域で暮らし、働き、集うことのできる港区を創る必要があるのです。福祉施策の充実こそ、今、港区が取り組むべき最優先課題なのです。

財政力豊かな港区だからこそ進められる都心ナンバーワンの福祉。

福祉の専門家として、自民党議員団の一員として、港区ならではの地域福祉を池田こうじは実現してまいります。

池田こうじ

※ 活動報告第11号は平成26年度予算特別委員会に関する報告を中心に作成しました。



池田こうじプロフィール

児童福祉と高齢者福祉の専門家から区議会への歩み

20代から福祉現場に従事、ケアマネージャー資格を取得、特別養護老人ホーム施設長なども務め、港区あんしん介護センターを設立・運営。西麻布の特別養護老人ホームベルを準備責任者として設立し法人監事に就任、港区介護事業者協議会会長なども歴任。現在も、虐待児など家庭に恵まれない子供たちを預かる児童養護施設、特別養護老人ホームなどの福祉施設を運営する社会福祉法人の理事長として福祉現場の陣頭指揮にあたる。現在、港区議会議員2期目。議会役職として、東京都後期高齢者広域医療連合協議会議長、防災エレベーター等対策特別委員会委員長など歴任。町会副会長、青少年対策地区委員会理事、消防団部長など地域奉仕活動にも従事。

港区立青南小、港区立三河台中（現六本木中）、都立小山台高校、明治学院大学経済学部（中退）、同志社大学文学部哲学科、卒業。慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科修士課程修了。健マネ三田会会長。自民党政経塾卒塾。昭和39年生まれ、家族、妻・長女・長男。趣味、音楽、野球、サッカー。

池田こうじ議会発言ファイル

安定、継続性があり、各機関とも良好な連携を果たしながら、適切に、力強く押し進める福祉政策、これが保守政党たる自民党が進める福祉であり、港区の福祉もまたそうあるべきだと思う。

（平成26年度予算特別委員会）



日本は少子高齢化に向かう。つまり働き手がいなくなるということだ。国会で始まっている移民や外国人労働者受け入れの議論の前に、女性や高齢者がいきいきと活躍できる地域社会を創る努力をしなければならない。

成熟した都心港区をさらに未来に進化させるには福祉先進都市を目指すよりほかはない。

（平成26年度予算特別委員会）

介護する家族の多くは区民だ。老老介護といわれる配偶者、子供やそのお嫁さんなど、世代を繋いでこの港区にいらっしゃる方々だ。その家族を支えてほしい。

在宅介護施策は家族の支援であり、港区に長く住み続けられるかというまちの未来を繋ぐ課題なのだ。

（平成26年度予算特別委員会）



2060年に高齢者比率が40パーセントを超える日本において、少なくとも現行の社会保障制度を続ける限りバラ色の未来はない。茨の道であります。ただその道を、裸足で歩くのか、革靴で歩くのか、めげずに進むという選択は可能です。消費税増税、後期高齢者医療保険制度の創設はそのような観点に立脚していることを、我々は次世代の子供たちのためにも理解しなくてはならない。

（平成26年度予算特別委員会）

「**保育園待機児童ゼロ**」という目標は福祉増進のためにも実現をしていかなくてはならないが、作ればよいと言うものではない。教育

水準の高い港区民ならではの質もきちんと基準を作り担保していかななくてはならない。そして保育園定員拡大を果たすのであれば、その子供たちが成長して小学生となった時の居場所づくりを早急に構築していかななくてはならないということになる。そこまで、まだ考えられていない。

（平成25年3月、保健福祉常任委員会）



福祉施策の推進は、まちに希望を与え、まちの絆を強くするポジティブなものである。都心の福祉施策推進のネックはスペースの確保だ。今こそ、先進福祉都心実現のために、再開発など港区のまちづくりの中で、福祉スペースを創出する仕組みを検討すべきだ。

（平成26年度予算特別委員会）

区立中学校の最大の特徴は地域に根差しているということです。福祉サービスも地域の中で地域の方々に提供される地域に根差した事業です。

地域に根差した区立中学校教育の中で、福祉サービスを理解する機会を作ることは、中学生の心の幅を広げ、ノーマライゼーションの理解、人権教育という観点からも有効なことだと考える。特別支援学級との交流も含め、港区の中学生に対して福祉に対する理解を積極的に進めてほしい。これこそ地域に根差した区立中学にしかできない魅力だ。

（平成26年度予算特別委員会）

来年度、教育委員会に設置される学校地域支援本部は教職員の負担軽減のためとうたわれているが、子供たちのための機能だと考え改めてほしい。

学校地域支援本部は自主クラブなど既存の活動にも介入し区立学校に通う子供たちの支えになってほしい。

（平成26年度予算特別委員会）



都心の課題、福祉施設スペースの創出について

都心の福祉施策推進のネックはスペースの確保だ。

今こそ、福祉最先端都心実現のために、再開発など港区のまちづくりの中で、福祉スペースを創出しなくてはならないと思う。

「港区開発事業に関わる定住促進指導要綱定住要綱」に福祉施設のカテゴリーを作ることを検討してほしいがどのように考えるか。

<答弁要旨> 生活利便施設の在り方を検討し、要綱を見直していく。

エリア福祉、身近にある福祉の推進について

大規模な特別養護老人ホームは、重度など高度な介護サービス対応を担う。住み慣れた場所では、在宅介護サービスが充実し、エリアごとに小規模多機能型の高齢者施設やグループホームがある。これが高齢者福祉のこれからの在り方だと思う。どのように考えるか。

<答弁要旨> 今後とも整備計画を進めていく。

六本木の安心安全のために拘束のある条例制定を

私は議員になって以来、六本木独自ルールの制定を訴えてきたこともあり、六本木安全安心憲章を港区が制定したことは評価したい。ただし、段階的にでも、拘束力のある条例を定めるべきだと考えている。

大田区では「公共の場所における客引き客待ち行為等の防止に関する条例」を制定する。港区にこういった条例があれば、六本木の環境も劇的に状況が改善すると思う。

他区の条例等の調査研究を進めていただき、六本木の環境改善を期してほしいがどうか。

<答弁要旨> 他区の条例と運用状況について調査研究をしながら、地域や関係機関と港区の安全についての活動を進めていく。

「生き残るための」防災施策について

東京の3月11日は大災害ではなかった。ただ、まちに溢れかえる昼間人口のインパクトは尋常ではなかった。帰宅難民対策や備蓄品

の充実等、港区も対策を急いだことは評価する。しかし、本来、一番大切なことは、発災時に「生き残る」ことだ。そのための支援や啓蒙が不足している。

「生き残る」ための啓蒙活動の他、レスキューセットを活用した防災訓練、高齢者への家具転倒防止器具の普及促進、避難所のAED配備等、諸策を進めてほしいがどうか。

<答弁要旨> あらゆる機会を通じて、「生き残る」ための防災を啓発していく。

介護を担う家族のための支援について

介護サービスは家族のためにあると言っても過言ではない。

在宅介護施策は家族の支援であり、港区に長く住み続けられるかというまちの未来を繋ぐ課題なのだ。

介護家族の会と来年度設置する認知症カフェの交流なども検討して欲しい。

区の介護する家族への支援の姿勢について問う。

<答弁要旨> 各機関と連携し家族支援を充実させる。

高齢者の自殺対策について

長生きするほどに尊厳豊かにならなくては何の長寿社会かと思う。高齢を理由に、家族や地域から見放され、絶望するようなことがあってはならない。役所の縦割り弊害で、高齢者の自殺の予見を見逃してはならない。

生活保護受給者のメンタルケア支援、高齢者見守り事業、保健所との連携などについて問う。

<答弁要旨> 高齢者の自殺対策について保健所と連携しながら極め細かく対応していく。

区中央部のドッグランについて

区民から要望書も出ている区中央部におけるドッグラン設置については、その声を重く受け止め、芝公園の一部を具体的候補地として明確に示し、規定整備などに取り組んできたことは評価する。ただし、東京都との交渉が難航している。港区が運営するドッグランにも関わらず、面積など都基準を貸借条件とす

母校、都立小山台高校野球班が春のセンバツに出場しました



練習は週3日でしかも1時間半、どんな悪環境でも後ろ向きに考えず、ひたすら前向きに突き進む、日本一練習時間の少ない甲子園出場校チームとして話題になりました。試合は1回戦で大敗しましたが、最後の瞬間まで前向きに戦う後輩たちの姿に涙しました。

2006年の悲慘なエレベーター事故の犠牲者である市川君は、母校野球班の有力選手でした。

いち早い事故原因の究明を改めて心から祈念した次第です。

る東京都に対し、空きスペースが少ない都心港区の事情を理解してもらうよう重ねて交渉を進めてほしいがどう考えるか。

<答弁要旨> 港区の特殊性を考慮して検討ができないか、粘り強く東京都と話し合いをする。

港区の区立中学校の魅力を高める諸課題について

区立小学校からの進学率は6割直前だ。魅力を高めるには地道な努力しかなく特効薬はない。実際、港区の中学校は私立学校との選択肢になるほど素晴らしい。金銭的負担のない公立校はさらに魅力的なはずだ。

例えば、英検や漢検、数検の受験が無料であること、理科パワーアップ事業があること、海外派遣制度があること、土曜日の補習事業で民間の塾の授業を無料で受けられることなど、港区は中学校の魅力を高めるための地道な努力をしてきた。

小学生父兄には低学年から中学校の魅力を伝える取り組みをしてほしい。

今後、中学校の進学率を高めるために区はどのような姿勢で取り組んでいくのか。

<答弁要旨> 提案されたことも含め、今後とも地道に取り組んでいく。

※ 詳細は港区議会ホームページ、議事録、動画でご覧いただけます

区政報告についてのご意見、区政への要望等をお聞かせください
FAX 03-5549-4157
 mail:info@ikedas55.com

港区議会自民党控室 港区芝公園1-5-25
 P C 版 HP <http://www.ikedas55.com>
 港区自民党 HP <http://www.minato-jimin.com/>

平成26年度の重点施策

- 地域の活力と魅力を高めるための取り組み
 196億9,208万円
- 高齢者や障害者など、誰もが安心して暮らせるための取り組み
 77億1,155万円
- 子供の笑顔があふれる健やかな成長に向けた取り組み
 63億9,457万円

各会計の財政規模

区分	予算額	増減率
一般会計	139,720,000	20.6
国民健康保険事業会計	22,945,957	2.1
後期高齢者医療会計	4,667,918	5.7
介護保険会計	14,060,804	5.3
合計	181,394,679	16.2

(単位:千円、%)